

勢力を示す

鍛屋地古墳公園

南小学校の校庭南側道路沿いに鍛屋地古墳公園がある。今回、この古墳公園を紹介したい。

利根沼田地域は生活環境の厳しい地であるが、小規模な古墳を中心に多くの古墳(約四百五十基)が存在する。村全体では、七十三基の古墳が昭和十年の調査で発見されている。平成四年から行われた鎌沢・川額地区土地改良事業で七十三基の内、十七基の発掘調査が行われた。

この調査で特に注目を浴びたのが、鍛屋地2号墳と御門1号墳の二基の円墳である。鍛屋地2号墳は直径二十mの大型円墳で、主体部の横穴石室も巨石を使用した大型のもの。副葬品はほぼ完全に残っており、5つの鈴のついた五鈴鏡、直刀3つ、大量の鉄鏃、様々な種類の馬具類や各種玉類など、前方後円墳の副葬品に匹敵するものが出土した。また、御門1号墳の大きさは小ぶりながら、蔵手刀(むらじま)を含む大刀4つ、刀子6つ、鉄鏃と多くの馬具類が出土している。

報告書には二基の古墳は、規模に比べて副葬品の馬具が多く、明らかに馬に関する職について

いた人が被葬者と考えられる。鍛屋地2号墳は利根沼田地方で最大級であり、同地方で優位に立つことのできる勢力の存在が考えられる」と記される。

当時、馬を飼育し利用できる者が大きな力を発揮していた。また、公園の周辺には軍原「御門」「御室」「宮原」などの「宮」や「御」が使われた小字名が伝わる。当時の中心地であったこともうかがわせる。

鍛屋地古墳公園は、本地域が古墳時代に大きな勢力を持っていたことを示す証となるものである。

参考 川額軍原一遺跡報告書
北毛地区の古墳



昭和村ボランティアガイドの会

理事 堤 義樹



地域包括支援センターだより

9月は「世界アルツハイマー月間」

知っていますか？認知症のこと

令和5年6月に認知症基本法が成立しました。この法律では、認知症の方のみでなく国民一人一人が認知症のことを「我が事」として考え、お互いに尊重し支え合いながら活力ある社会づくりを目的としています。

認知症は、誰でもかかる可能性のある身近な病気です。だからこそ、本人や家族だけでなく地域全体で助け合い、支え合っていくことが大切です。ぜひこの機会に認知症について考えてみましょう。



◆昭和村地域包括支援センター
☎20-1126

地域包括支援センターは、地域の高齢者のための総合相談窓口です。必要に応じて、ご自宅などへの訪問も行っていますので、心配事や悩み事がありましたらお気軽にご相談ください。

◆群馬県認知症疾患医療センター内田病院
☎24-5359

「もの忘れが気になる、診察してほしい」そんな時には、まずかかりつけ医に相談しましょう。状況によっては、認知症に関する鑑別診断や専門医療相談を行う『認知症疾患医療センター』と連携します。



問合せ 地域包括支援センター ☎20-1126

